

(4) 養護教諭部会

会 長 杉野 祥 (東中筋小)
副会長 岡村 美香 (西土佐小)
事務局 杉野 祥 (東中筋小)

1. 研究主題 「児童・生徒の実態に基づいた効果的なアプローチ方法の研究」

2. 研究経過

実施月日	研究のあらまし	会 場
令和7年 4月21日(月)	・全体会(役員の確認・確認事項等) ・グループ研究(研究体制)	東中筋小学校
5月7日(火)	・全体会(確認事項等) ・グループ研究(研究の計画作成)	中村中学校
6月26日(木)	・全体会(確認事項等) ・グループ研究	中村小学校
10月21日(火)	・全体会(確認事項等) ・グループ研究	中村西中学校
11月14日(月)	・小学校100人未満グループ 講演「ジェンダーやLGBTQについて」 講師：西部教育事務所 久米田 先生	中筋小学校
12月8日(火)	・全体会(確認事項等) ・グループ研究	meet
令和8年 1月22日(木)	・全体会 ・小学校2グループ・中学校グループ研究発表 ・グループ研究	具同小学校
3月5日(木)	・全体会(今年度の反省) ・来年度の研究体制について	中村南小学校

3. 各グループの取組

(1) 小学校100人未満グループ

①研究テーマ「性と生の学習」

②研究内容

- ・西部教育事務所
久米田真吾先生による講話
- ・発表に向けての資料作り



【感想】

- ・性のあり方は明確に分けられるものではなく、グラデーションのように多様であることがわかった。
- ・カミングアウトする人は少なく、一人で抱えている人が多いのだと思った。
- ・「アンコンシャス・バイアス」という言葉を今まで知らず、勉強になった。
- ・相談を受けた時はすぐに第三者に共有するのではなく、相談してくれた人の気持ちを大切に、困っていることに対して一緒に解決に向け考えていくことが大切だとわかった。
- ・10代のLGBTQのうち、1年間で約半数の人が自殺を考えたことがあることを知り、相談しやすくなるために必要なことや、LGBTQであることを周りに話していなくても安心して過ごせるように環境整備を考えていきたいと思った。

(2) 小学校 100 人以上グループ

①研究テーマ 「 養護教諭の職務の充実を目指して」

②研究内容

- ・感染症流行時、感染拡大防止のために保護者や教職員に感染症の特徴や校内の流行状況、予防について迅速に啓発することが必要である。しかし、流行時は来室者への対応などに追われ、ほけんだよりの作成が遅くなってしまうこともある。事前に感染症についてのほけんだよりの作成しておくことで、スムーズに対応できると考えた。特に学校での流行が多く見られたり、感染が拡大しやすいものに絞って、「インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症」「マイコプラズマ感染症」「アタマジラミ」「感染性胃腸炎」「百日咳」について作成する。

(3) 中学校グループ

①研究テーマ 「 相談活動の充実 ～思春期の心に迫るアプローチの方法～」

②研究内容

- ・初年度ということもあり、計画的にというよりも各学校の困り感から次回の取り組み内容を定める形となった。具体的な資料を持ち寄ることで各校がすぐに活用でき、活用してみでの感想等もフィードバックできた。また、そこから変化をみとるためにどうすべきか模索するきっかけにも繋がった。さらに、具体的な事例を検討する中では、生徒の背景や心理状況をくみ取った支援方法や支援会へのアドバイスなど意見を出し合い、困り感解消のヒントを得ることのできる取り組みとなった。

4. 今年度の成果と課題 (○…成果 ●…課題)

(1) 小学校 100 人未満グループ

- これまで、二次性徴や命の学習に関わりの深い講師による講話だったが、今年度はジェンダー等についての講話を聞くことができ、新しい気づきを持つことができた。
- 今年度は、久米田先生による講話以外は研究発表に向けてのまとめと資料作りの活動になってしまった。

(2) 小学校 100 人以上グループ

○昨年度作成していた検尿おみくじを
4校で引き続き実施でき、提出への
意識付けや提出率向上につながった
学校があった。

○それぞれがほけんだよりを作って、
持ちより検討することで、内容を
深めることができた。

●研究内容を決定するのが2学期半ば
になったため、ほけんだよりの作成にとどまり、今年度実際に使うことはできなかった。
来年度、必要に応じて活用していきたい。



(3) 中学校グループ

○生徒の状態に応じて「今日の健康状態」や
「心のスケール」などを実施すると、生徒は
自分の気持ちの整理ができ、養護教諭は聞き
取りの材料となり会話をしながら生徒の状態
を知る手立てとなった。

○すぐに使える資料を共有し活用できたこと
はよかった。それを共通の資料とし思春期
の生徒について理解を深めた。

○中学校ならではの困り感を共有し、それぞ
れの取り組みを紹介する中で、各校の実践
からヒントを得ることができた。



●計画的に実践することができたら、もっと内容が深まったのではないかな。

●グループ研修の時間が短く、十分な取り組みができなかった。